

センター活動報告-情報発信と情報収集の取組み

シンポジウム 2019 「DATA～データを活用した教育の実践～」実施報告

大足 恭平[†], 村上 雄大[†]

実施報告概要

日時： 2019 年 12 月 14 日（土）14:00～18:40

場所： 青山学院大学青山キャンパス

本多記念国際会議場

教育デザインと情報メディアを考えるシンポジウム 2019 では「DATA～データを活用した教育の実践～」をテーマに、データを活用した学びの実践と、そのための統計とソフトウェアの利活用に焦点を当てた。大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所所長の椿広計教授による特別講演「データとソフトウェアを活用したデータ分析教育で何をどう教えるか？—予測型分析を例に一」のほか、企業講演では DeNA 株式会社の松井健一氏による民間におけるデータサイエンティストの最先端の働き方の講演があった。また、青山学院大学の経営学部ならびに経済学部におけるデータを活用した教育実践の報告、美添泰人本学名誉教授による現代社会で必要とされる統計的素養とデータに基づいた思考方法の教育に関する講演と骨太で盛りだくさんの内容となった。全国の大学関係者や官公庁、データサイエンスに近い企業・団体など各方面からの参加があったほか、青山学院関係者（情報メディアセンターを含む青山学院所属の者）も 30 名近くが参加した。当日申し込みも含め、シンポジウム全体で 116 名の参加があった。

講演内容

- ・ 椿広計（統計数理研究所所長・教授）
「特別講演「データとソフトウェアを活用した

データ分析教育で何をどう教えるか？—予測型分析を例に一」

数理・データサイエンス・AI 教育の全国民への展開が進む中で、これまでの計算手順の習得を通じて統計的ものの見方を学ぶ教育スタイルは大幅な変革を迫られている。一方、ソフトウェアによるデータ分析教育の重視は必然であるが、単なる文房具の使い方教育を超えて統計的問題解決プロセスやその背景原理を如何に効果的に教育するかも問われている。ここでは、講演者が大学等で行った講義の変遷を紹介し、人工知能を利活用しなければならない現代の教育のあり方を提言したい。

- ・ 松井健一（株式会社 DeNA）
「データ分析コンテストとデータサイエンティストの働きかた」
- ・ 保科架風（青山学院大学経営学部准教授）
荒木万寿夫（青山学院大学経営学部教授）
「青山学院大学経営学部におけるデータサイエンス教育の展望と課題～学生のモチベーションを刺激する取組み事例～」
- ・ 高橋朋一（青山学院大学経済学部教授）
三條和博（青山学院大学経済学部教授）
「青山学院大学経済学部における GIS 教育について」
- ・ 美添泰人（青山学院大学名誉教授）
「データに基づいた思考方法の教育と統計検定」

実行委員会

- ・ 元山 斉
（情報メディアセンター副所長、経済学部教授）
- ・ 大足 恭平（情報メディアセンター助教）
- ・ 村上 雄大（情報メディアセンター助教）

[†] 青山学院大学附置情報メディアセンター